

風力発電で地域振興

福島県・北九州市産業集積

中小・ベンチャー・中小政策

福島県いわき市で風力発電の部品と関連機器開発やメンテナンスを一貫して受注するネットワークとなるいわきウインドパレィ推進協議会がスタートした。福島県も事業化ワーキンググループを立ち上げた。北九州市は市主導で、産業の集積を進める。風力発電の機器開発とアフターサービス体制を充実させることで、地域産業を振興する取り組みを模索する。

(いわき・駒橋 倫)

いわきウインドパレィに参加する企業が探募ベースに乗るのはこれからだ。タワーを製造する会川鉄工(いわき市)は受注につながつているものの、風車向けボルトのメーカー、東北ネオ製造(同)は現在、ボルトの大臣認定取得が最終段階にある状況。富士ヒール・エスはコンクリート製の浮体配力の構造を実証中。電気工事、プラントメーカーも売り上げにつながるのはこれからだ。参加企業は陸上と洋上をにらみ、1

技術力強化・人材育成 加速

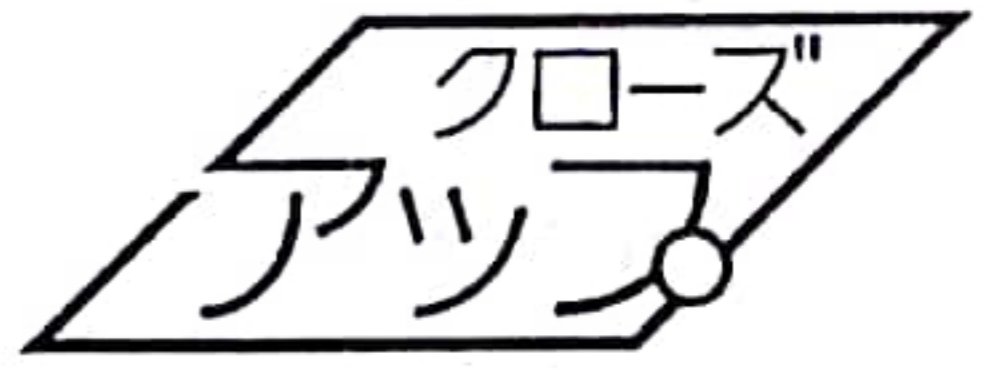
万点はある風力発電機の部品製造とメンテナンスの受注に向け、情報の共有化、技術力の強化、人材の育成を進める。

関連産業育成

福島県沖で2018年度に終了する世界最大の洋上浮体式風力発電実証事業は、400億円の出資が地元産業に恩恵をもたらしてはいない。会川鉄工の会川文雄社長は「風力産業に15万人もの雇用が生まれているドイツを見て、日本にも日本の風



①福島県に立つ風車 ②風力発電のタワー



車メーカーと関連産業が育ち、いわき市を陸上と洋上風力産業の集積地としたい」と力を込める。今後大きく増え、日本の風力発電は累計340万キロワットに、北九州市は市「(北九州市は)洋上風力の拠点基地づくりで、今最も先行する」と期待されている。

開発・メンテ体制 拡充

いわき市で(福岡県直方市)は工場新設を検討する。軸受の世界のメーカーで受注する独自のメーカードットワーク化が動きだす。福島県いわき市から相模地区にかけて、日本トップクラスの風力発電計画が具体化している。計10万キロワット程度で、300基以上の風車が立つ。福島県の委託に、北九州市は「(北九州市は)洋上風力の拠点基地づくりで、今最も先行する」と期待されている。

独と連携協定

風力発電の産業ネットワーク化が動きだす。福島県いわき市から相模地区にかけて、日本トップクラスの風力発電計画が具体化している。計10万キロワット程度で、300基以上の風車が立つ。福島県の委託に、北九州市は「(北九州市は)洋上風力の拠点基地づくりで、今最も先行する」と期待されている。

W1工場に隣接した大型工場を新設。陸上風車向けは3000キロワット級までを同工場年間100〜200本生産する体制を整える。洋上風力は小名浜港に日本唯一となる、1500トクレーンが建てることができるとある。

港灣にタワーやナセルの組み立てを行う集積基地の実現は風力発電の製造に不可欠であり、同社などはいわき市と一体で港灣管理する県に要請する。同社はまず福島県の陸上風車で、19年に発注となる3000キロワットのタワー受注を目指す。